

本市における 現状の整理について

令和7年8月8日

第3回 境港市立地適正化計画策定検討委員会



1. 現状整理

(1)人口

(2)土地利用

(3)防災

(4)都市交通・インフラ

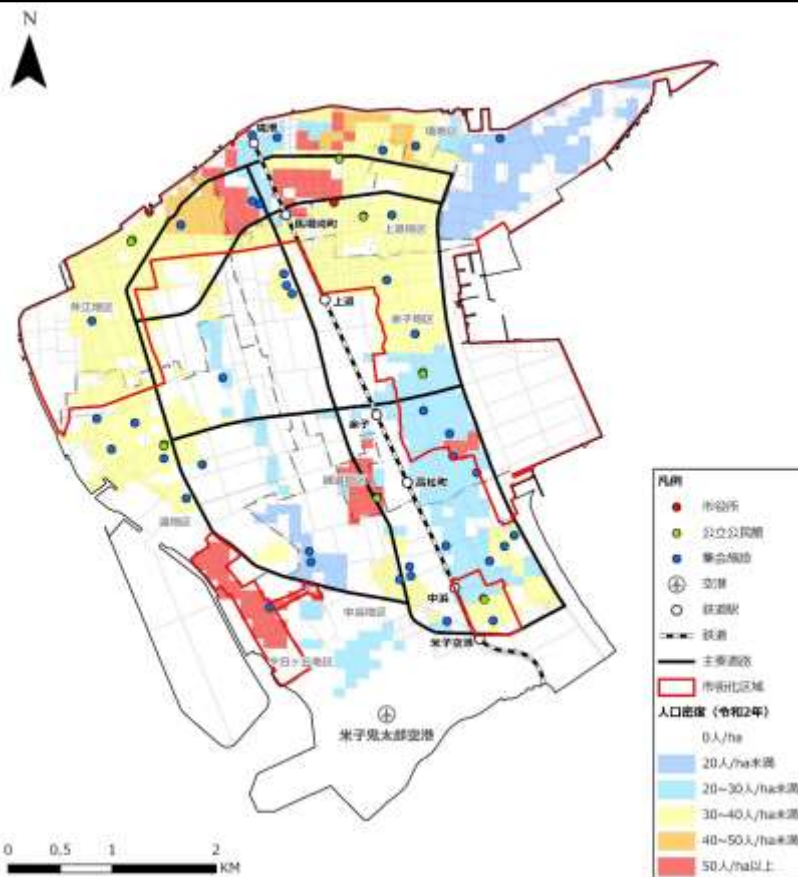
(5)財政

2. まとめ

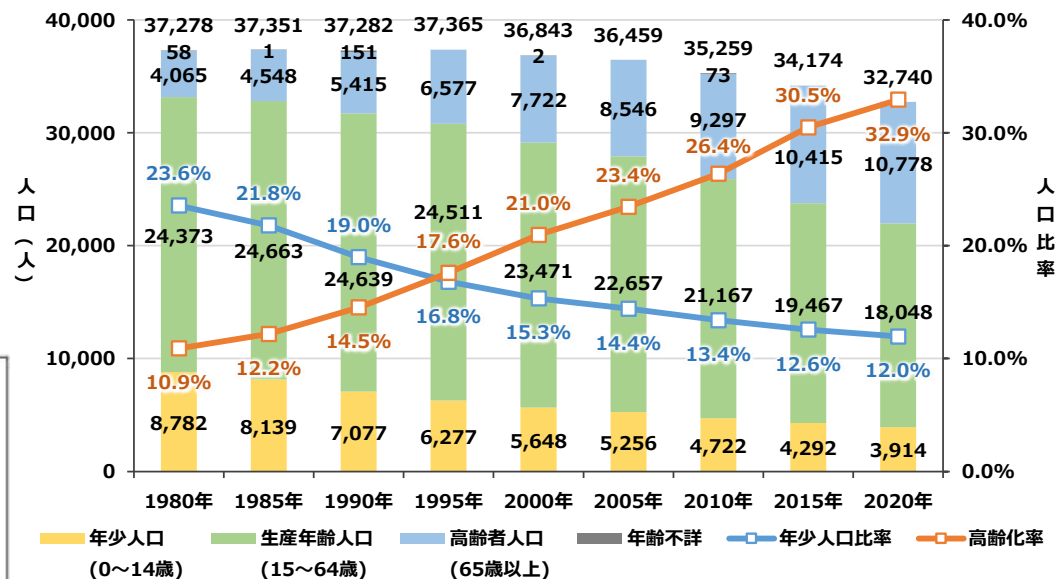
1. 現状整理

(1)人口(市全域・実績)

- 人口の分布は、基本的に市街化区域内に集中していますが、市街化調整区域である誠道地区にも人口が集中しています。
- 市の人口は、平成7(1995)年までは概ね横ばいで推移していましたが、平成12(2000)年以降は減少傾向にあり、令和2(2020)年時点では32,740人となっています。
- 年齢区分別に見ると、高齢者人口が年々増加しており、平成27(2015)年以降、高齢化率が30%を超えています。一方、年少人口比率は減少傾向であり、令和2(2020)年時点は12%程度となっています。



資料：国勢調査



資料：国勢調査
※2015年、2020年は年齢不詳分を補完したデータを使用

図 年齢階層別人口と人口比率の推移

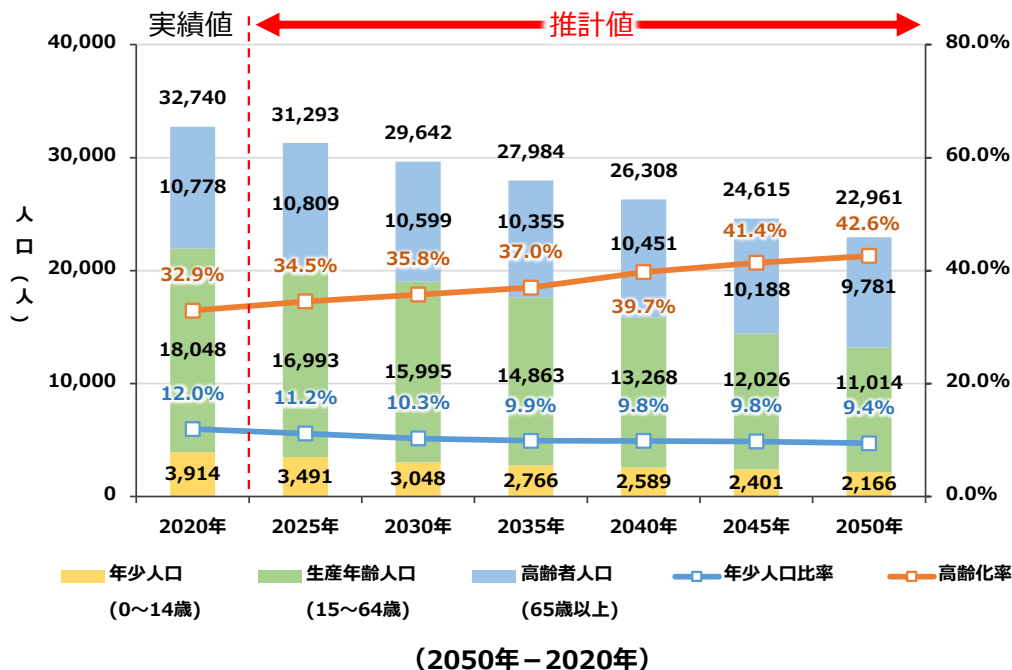
図 人口密度：令和2(2020)年

1. 現状整理



(1)人口(市全域・将来推計)

- 将来人口推計では、市全体で令和7(2025)年以降人口が減少し、令和32(2050)年には23,000人を下回ると推計されています。高齢化率は令和32(2050)年までに42.6%まで増加し、年少人口比率は令和32(2050)年までに9.4%まで減少することが推計されています。



年少人口
-1,748人

生産年齢人口
-7,034人

高齢者人口
-997人

資料：国勢調査【2020年】
国立社会保障・人口問題研究所 令和5（2023）年公表値【2025~2045年】

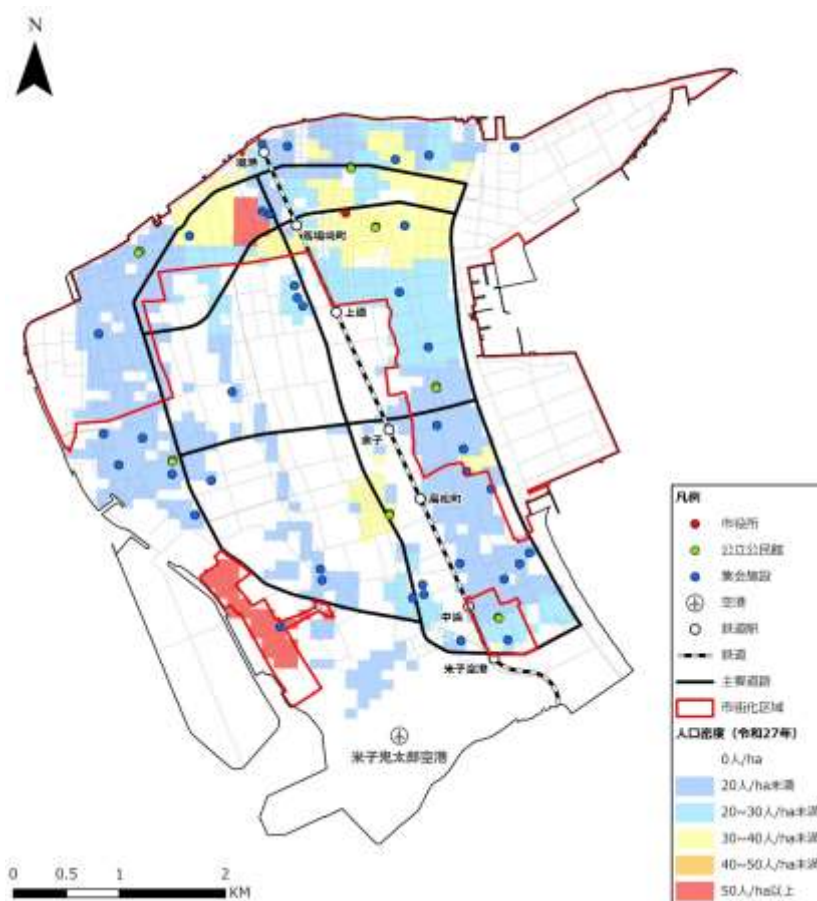


図 年齢階層別人口と人口比率の将来推計

図 人口密度：令和27(2045)年



(1)人口(地区別)・将来推計含む

- 人口のこれまでの推移と将来推計について、さらに細かく確認するため、以下の通り渡地区、外江地区、境地区、上道地区、余子地区、中浜地区、誠道地区、夕日ヶ丘地区の8地区に分類し集計を行いました。結果は次頁以降に示します。

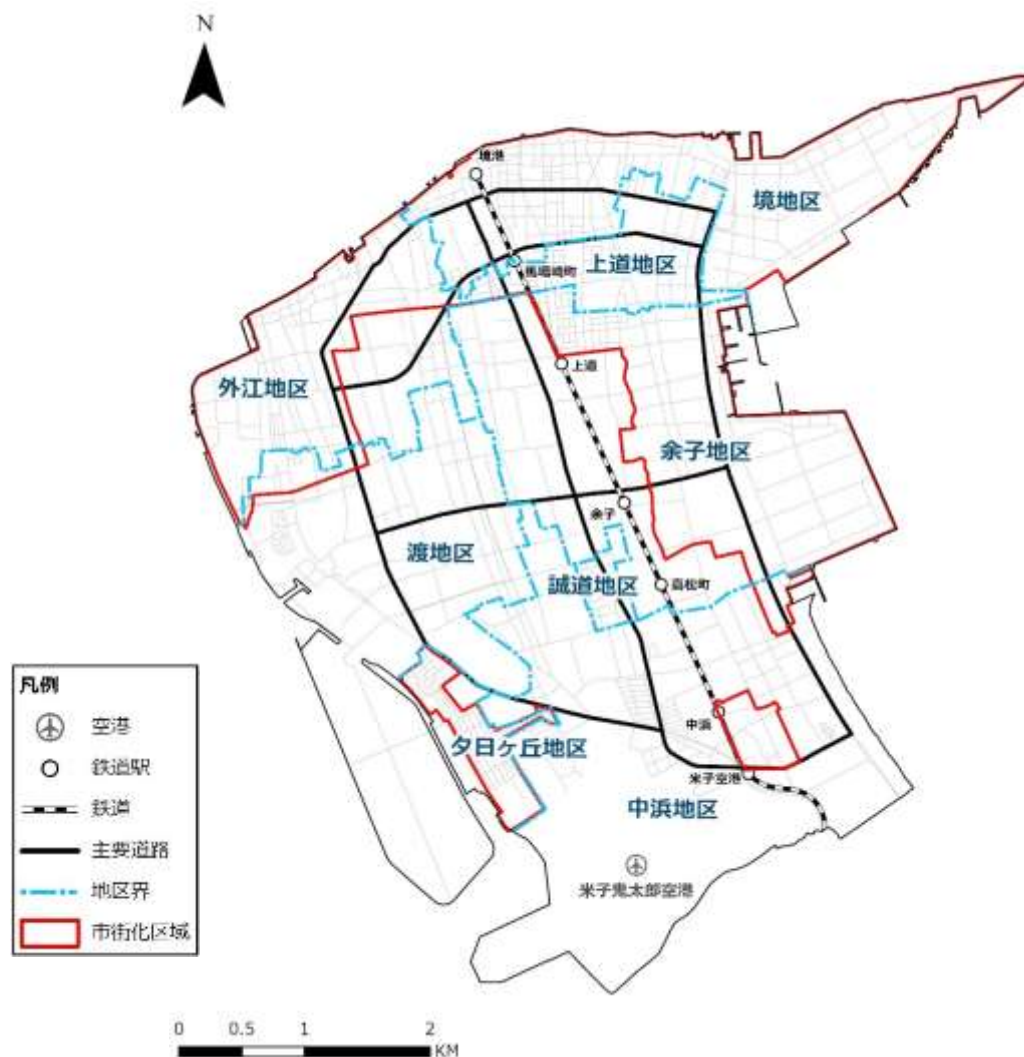


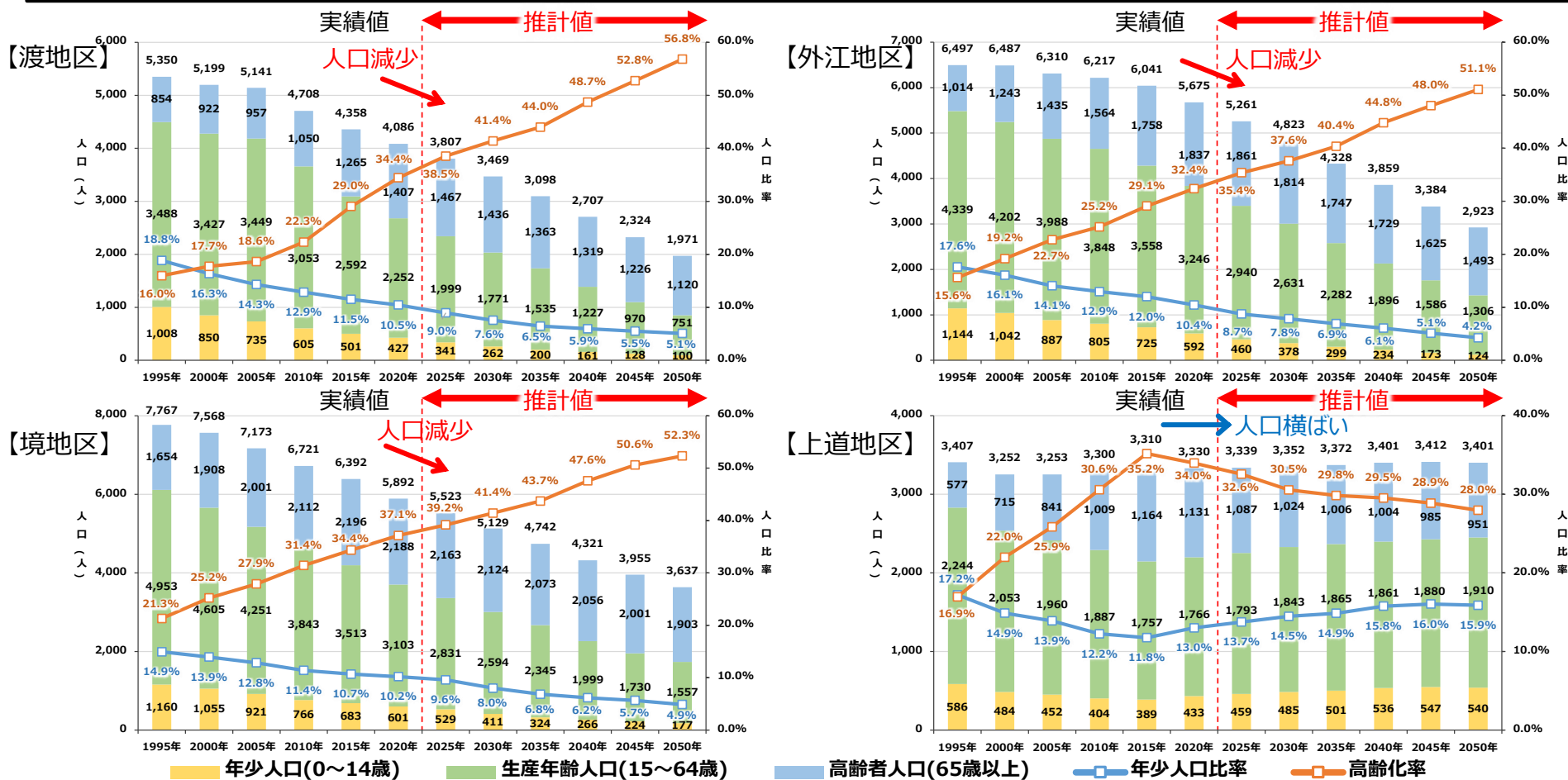
図 人口の推移・将来推計にあたっての地区分け

※町丁目別の分類詳細や人口推計方法については参考資料に記載

1. 現状整理

(1)人口(地区別)・将来推計含む

- 渡地区、外江地区、境地区の人口推移・人口比率の傾向(実績値・推計値)は類似しており、いずれも人口減少傾向にあり、高齢化率は増加、年少人口比率は減少していくことが推計されています。
- 一方、上道地区においては人口は概ね横ばいで推移しています。市役所等の中枢機能がある中心部であり、その他生活サービス施設へのアクセス性も良いため、人口が維持されているものと考えられます。



資料：国勢調査（2020年まで）、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2国調対応版）」を使用（2025年以降推計値）

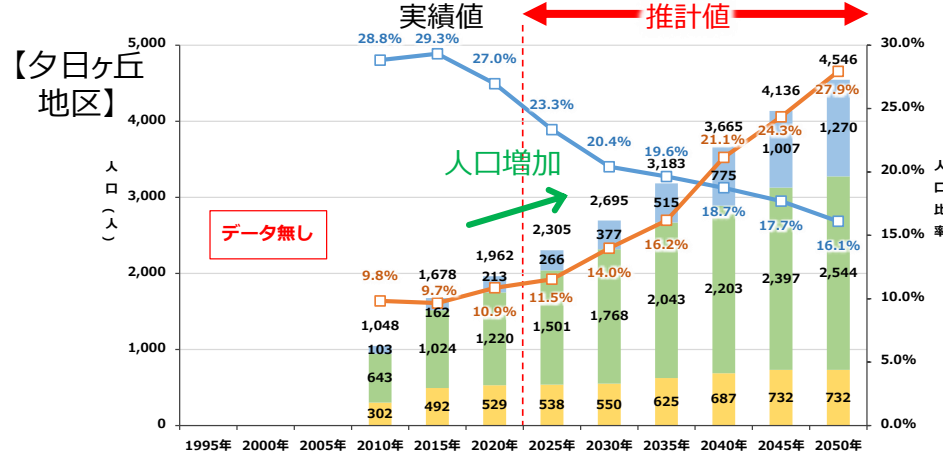
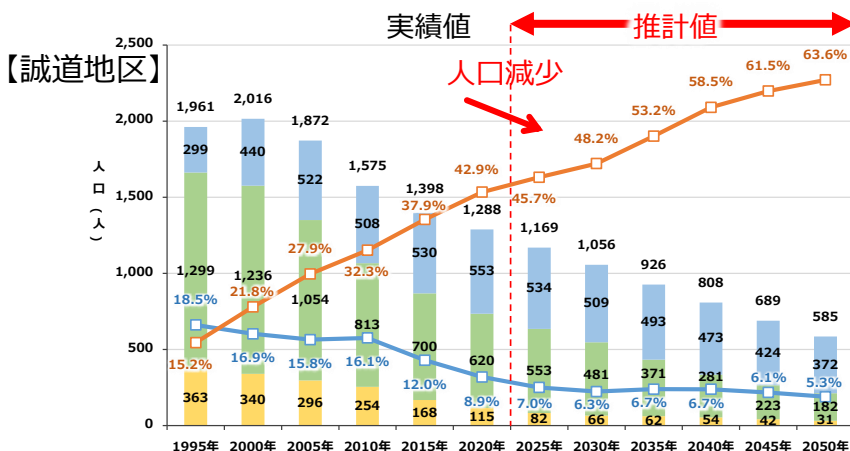
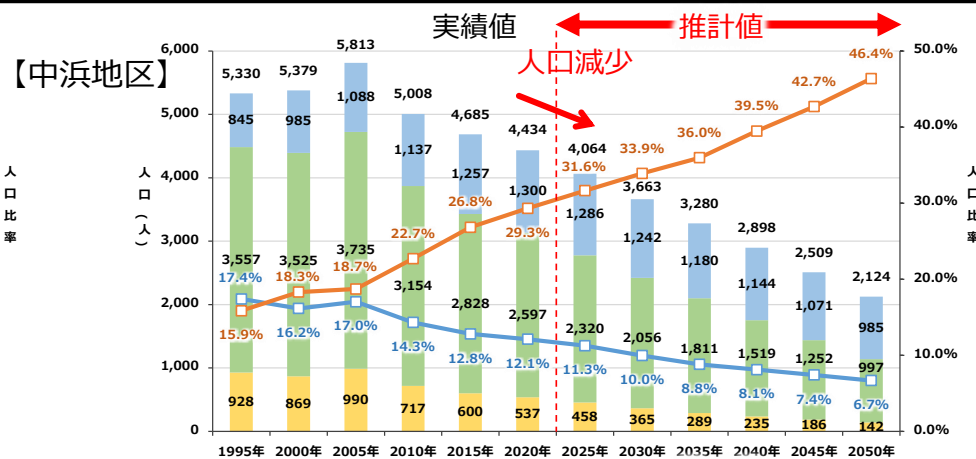
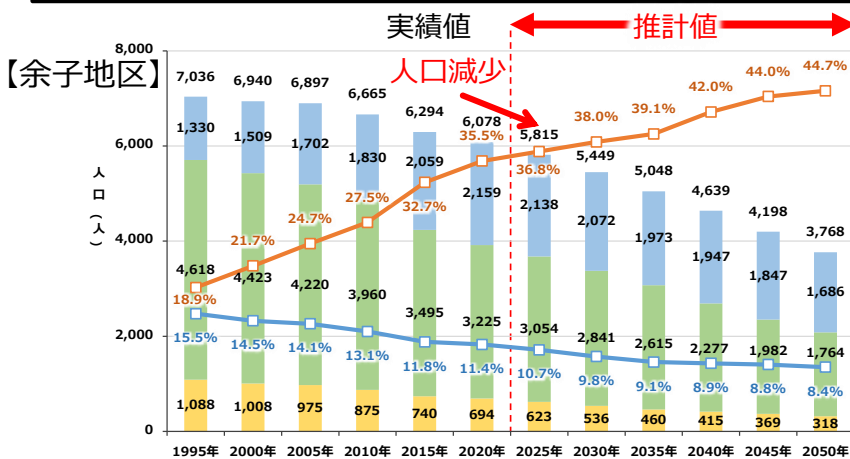
図 各地区の年齢階層別人口と人口比率の推移

1. 現状整理

(1)人口(地区別)・将来推計含む

※夕日ヶ丘地区定期借地権制度：100 坪相当の土地を月額 5,000 円で 51 年間利用することができる市実施の制度

- 余子地区、中浜地区、誠道地区の人口推移・人口比率の傾向(実績値・推計値)は類似しており、いずれも人口減少傾向にあり、高齢化率は増加、年少人口比率は減少していくことが推計されています。
- 夕日ヶ丘地区においては、統計データの存在する平成22(2010)年から令和2(2020)年時点まで人口が増加していますが、夕日ヶ丘地区定期借地権制度※の活用によるIターン移住者の増加等が要因として考えられます。



資料：国勢調査（2020年まで）、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2国調対応版）」を使用（2025年以降推計値）

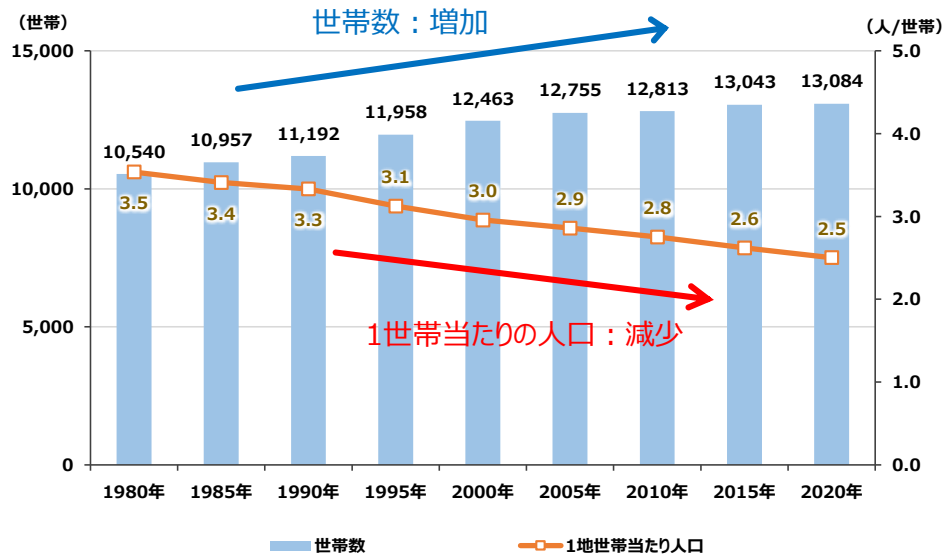
図 各地区の年齢階層別人口と人口比率の推移

1. 現状整理



(1)人口(世帯数)

- 市の世帯数は、昭和55(1980)年以降上昇傾向にあり、令和2(2020)年までの40年間で、世帯数は約2,500世帯増加しています。
- 一方、1世帯当たりの人口は年々減少しており、家族類型別にみると、単独世帯や夫婦のみの世帯、ひとり親と子どもの世帯が増加しています。



資料：国勢調査

図 世帯数の推移 (境港市全体)



※1 総数では「世帯構成不詳」は除く

※2 「ひとり親と子供」は「男親と子供から成る世帯」と「女親と子供から成る世帯」の合計値

※3 「三世帯」は、「夫婦、子供と両親から成る世帯」、「夫婦、子供とひとり親(片親)から成る世帯」、「夫婦、子供、親と他の親族から成る世帯」の合計値

※4 「その他」には各項目に分類されない「一般世帯」に加え、「施設等の世帯」を含む

資料：国勢調査

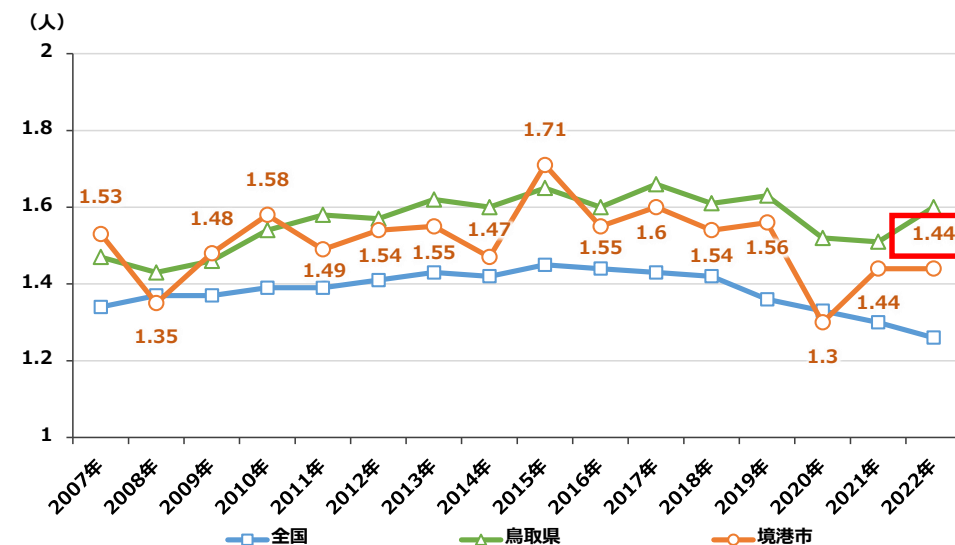
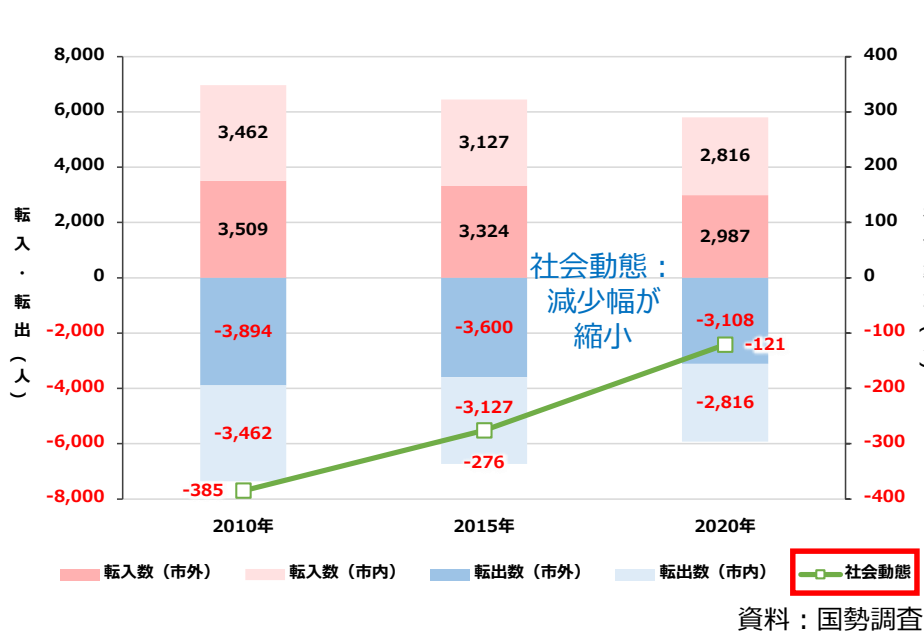
図 家族類型別世帯数の推移 (境港市全体)

1. 現状整理



(1)人口(転出入・出生率・年少人口)

- 市の人口推移における社会動態(転入数-転出数)は平成22(2010)年以降の各年においてマイナスであり転出超過をとっていますが、その幅は徐々に小さくなっています。
- 市内の合計特殊出生率は1.44と全国平均を上回っているものの、経年的に県平均よりは低い傾向にあります。



資料：人口動態調査結果(厚生労働省)

注) 境港市の合計特殊出生率は、厚生労働省から交付された各年の人口動態調査結果をもとに、鳥取県福祉保健部福祉保健課で算出しています。算出に当たっては、鳥取県企画部統計課発表の各年10月1日現在推計人口を用いています。なお、鳥取県の合計特殊出生率は、厚生労働省が発表する各年の「人口動態調査結果」によります。

図 年齢階級別人口転出入

資料：人口動態調査、境港市 Data Book 2024

図 合計特殊出生率の比較

(2) 土地利用(土地利用の変遷)

- 昭和51(1976)年と令和3(2021)年の土地利用を比較すると、市全域において建物用地が拡大しています。特に、田や農用地となっていた範囲で、建物用地への土地利用転換が進んでいます。
- また沿岸部では、竹内工業団地や中海干拓地等の埋立事業、米子鬼太郎空港の開業といった大規模な開発行為等によって土地利用範囲そのものが拡大しています。

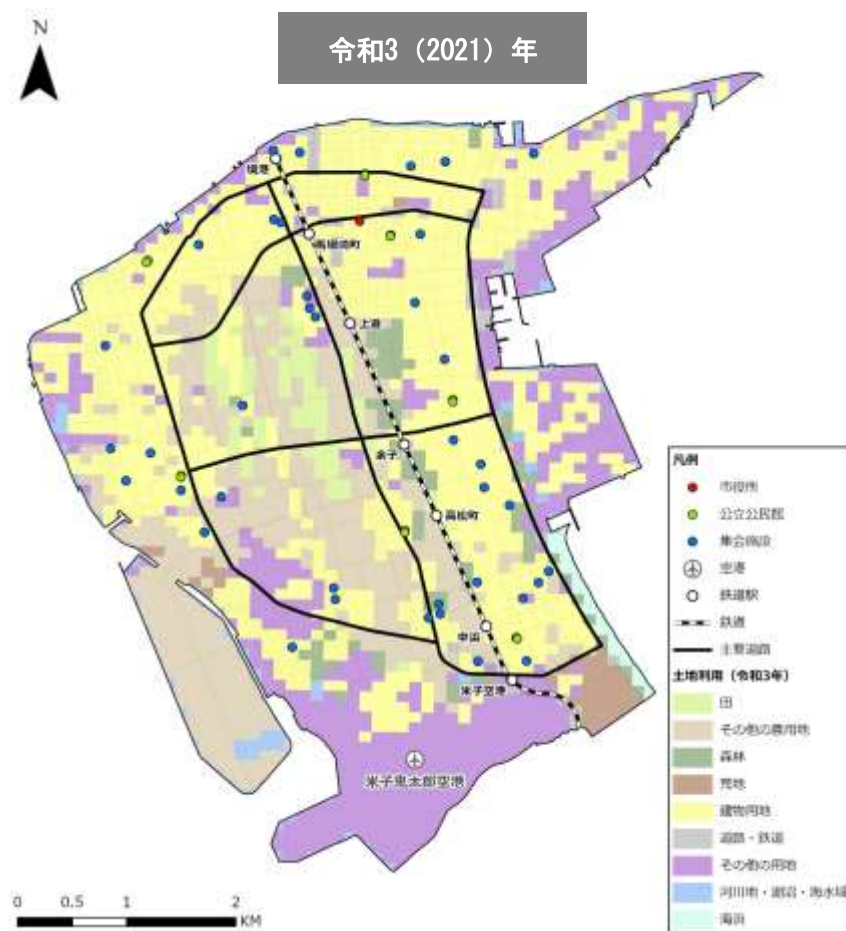
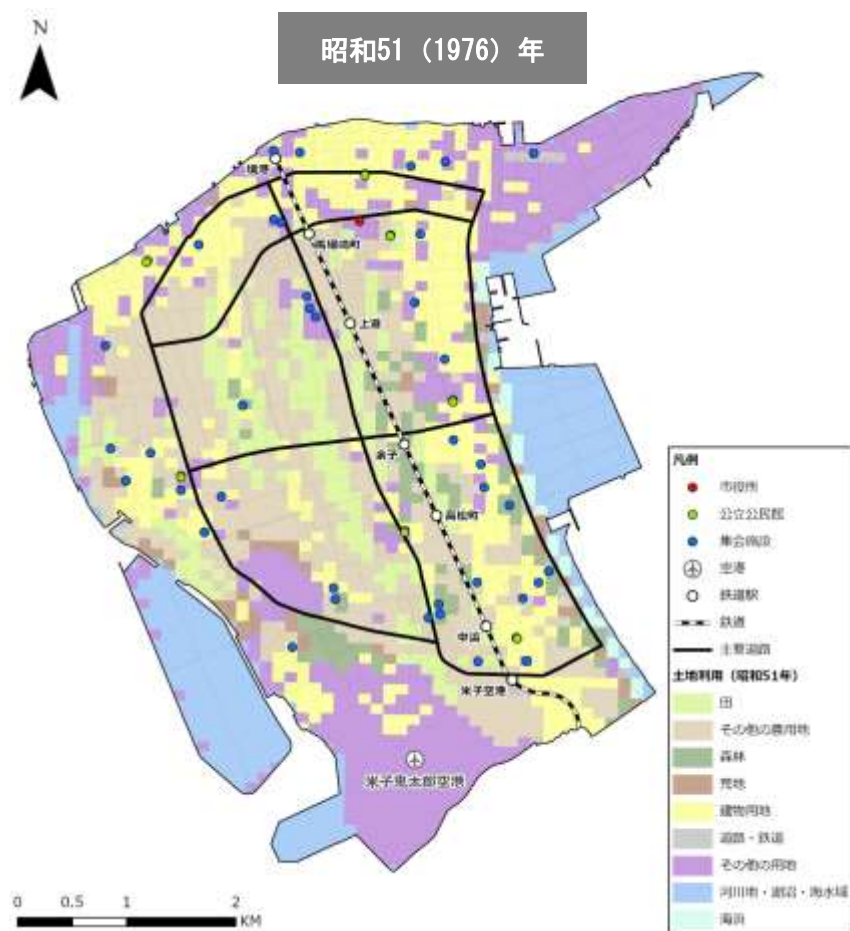


図 土地利用の推移(左:昭和51年、右:令和3年)

資料: 国土数値情報「土地利用細分メッシュデータ」

(2)土地利用(DID)

- DID(人口集中地区)は、昭和55(1980)年時点では境地区、上道地区の一部に分布していましたが、令和2(2020)年時点では、境地区、上道町、外江町、竹内工業団地の市街化区域内において分布が拡大しています。
- DIDの人口密度については、近年は概ね横ばいに推移していますが、令和2(2020)年に54.0人/haと最も高くなっています。

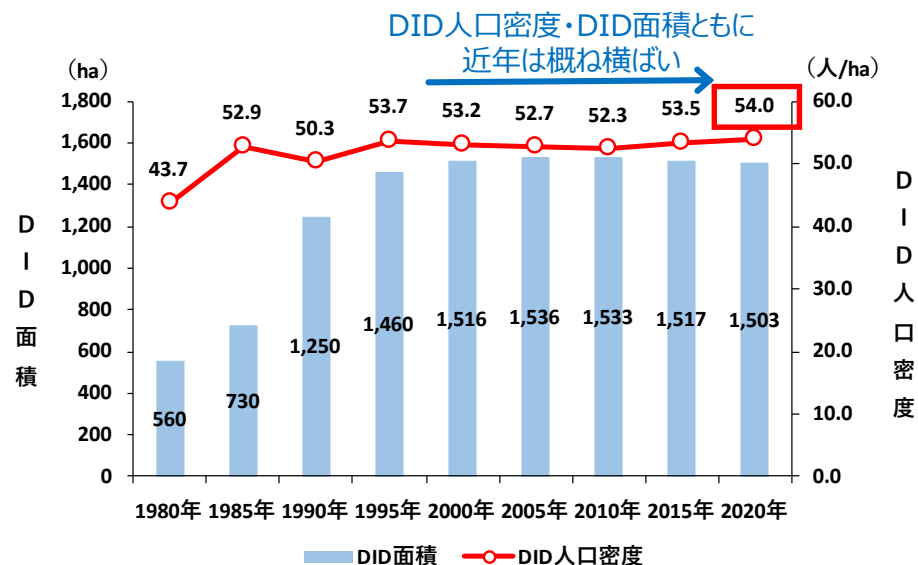
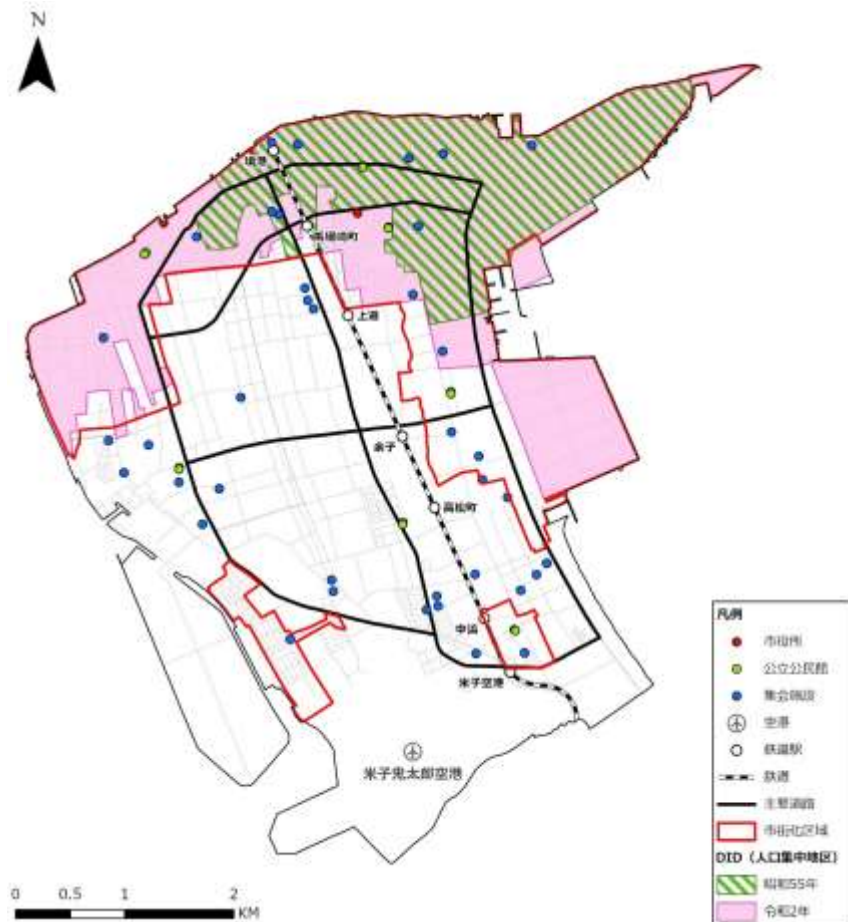


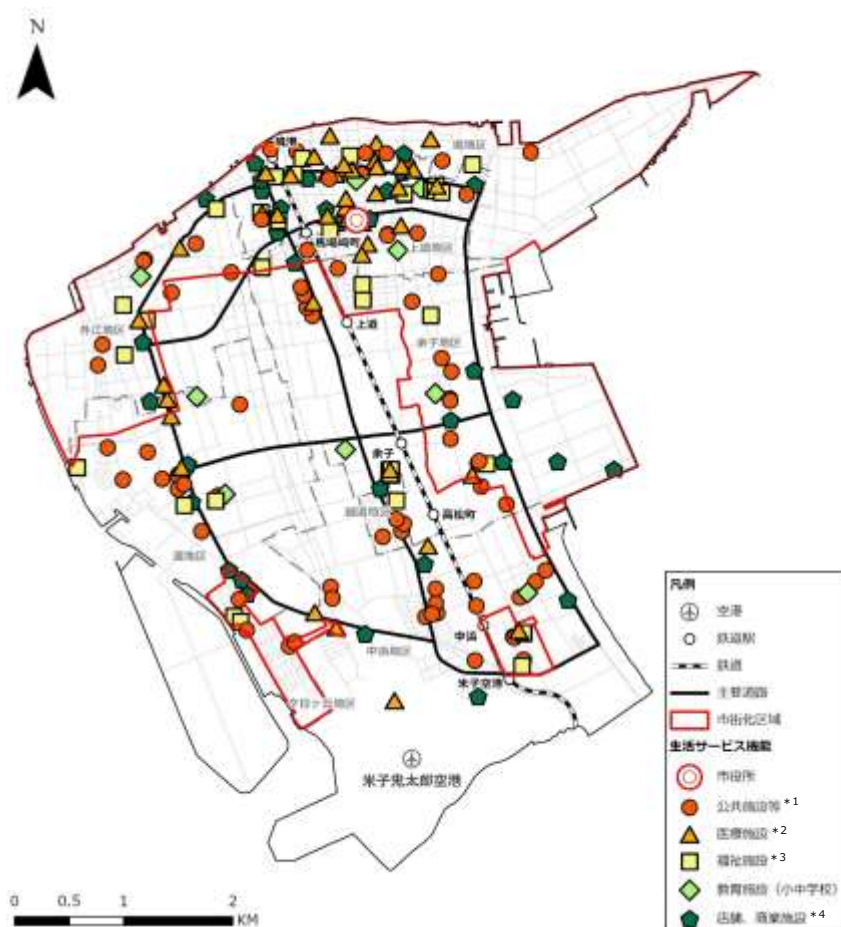
図 DID(人口集中地区)の面積・人口密度の変遷

資料：国土数値情報「人口集中地区データ」(昭和55年)、国勢調査(令和2年)

図 DID(人口集中地区)の変遷

(2)土地利用(生活サービス機能)

- 生活サービス機能は市の全域で立地が見られますが、境地区に特に集中しているほか、市内の主要道路沿いに広く分布していることが特徴です。
- 生活サービス機能の多くは市街化区域内に分布していますが、市街化区域外にも一定程度の分布がみられます。



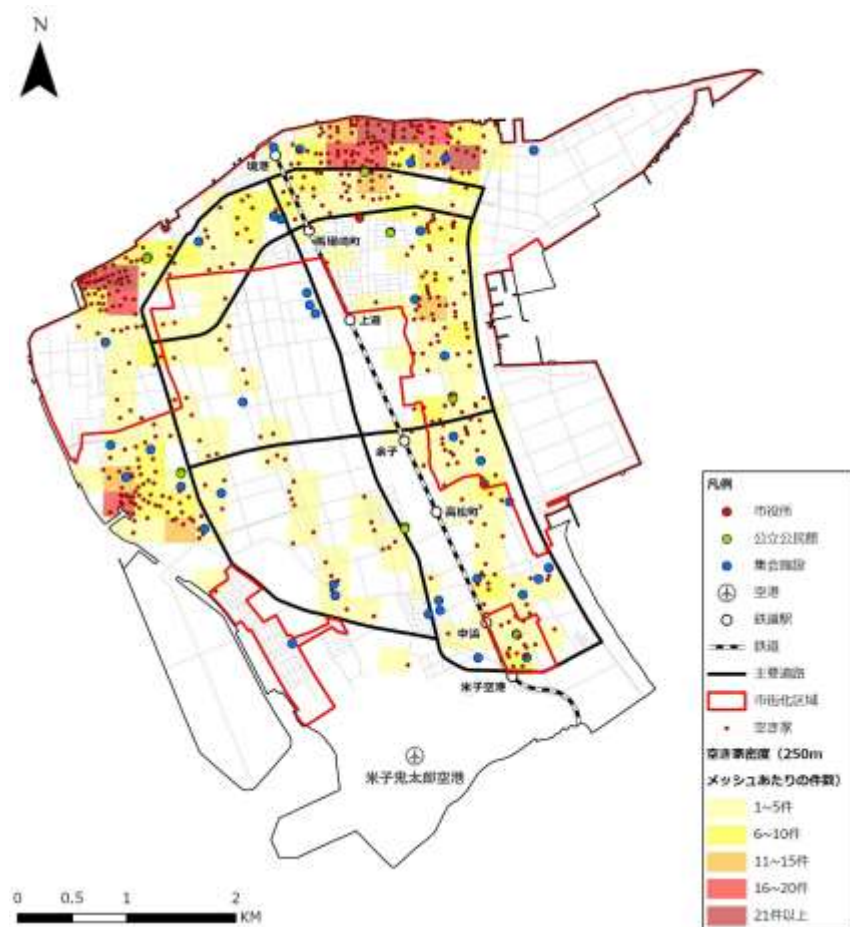
- * 1 公共施設等：市営住宅、地域子育て支援センター、幼稚園、児童福祉施設等（保育所等）、警察署、消防署、公民館・集会所
- * 2 医療施設：病院、診療所、歯科診療所
- * 3 福祉施設：介護保険サービス事業所、サービス付き高齢者向け住宅、老人福祉施設、障害者支援施設等
- * 4 店舗、商業施設：大型商業施設、スーパーマーケット、コンビニエンスストア

資料：境港市提供データ（介護保険サービス事業所、サ高住）、国土数値情報（その他）

図 誘導施設の対象となる生活サービス機能の分布状況

(2)土地利用(空き家)

- ・ 空き家は令和5(2023)年時点で、境地区、外江地区の沿岸部などに多く分布しています。
- ・ 空き家数は、平成25(2013)年以降、2,200～2,600戸で推移しており、概ね増加傾向にあります。また、空き家率(住宅総数に占める空き家の割合)は、令和5(2023)年時点で16.5%となっており、平成10(1998)年以降、概ね増加傾向にあります。



資料：境港市提供データ(令和5年時点)

図 空き家分布・空き家密度

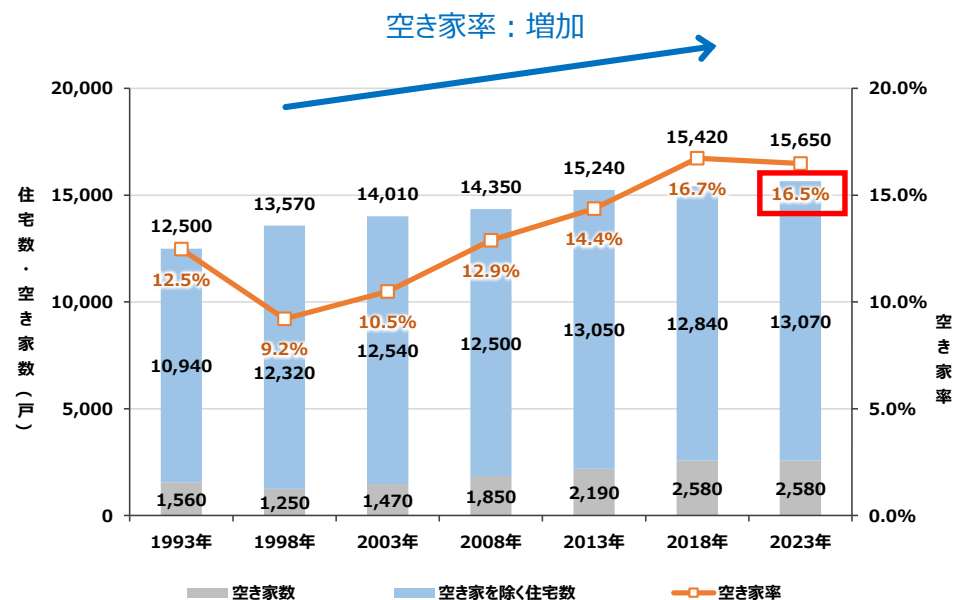


図 住宅総数、空き家数及び空き家率の推移

(3) 防災(浸水想定区域・土砂災害)

- 想定最大規模の洪水により、中海干拓地や外江地区の西側の一部で浸水が想定されています。
- 想定最大規模の津波が発生した場合、昭和地区工業団地を中心に北部沿岸(境水道)から東岸の一部にかけて浸水が想定されています。
- 土砂災害については、市内に土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域の指定は無く、リスクはありません。

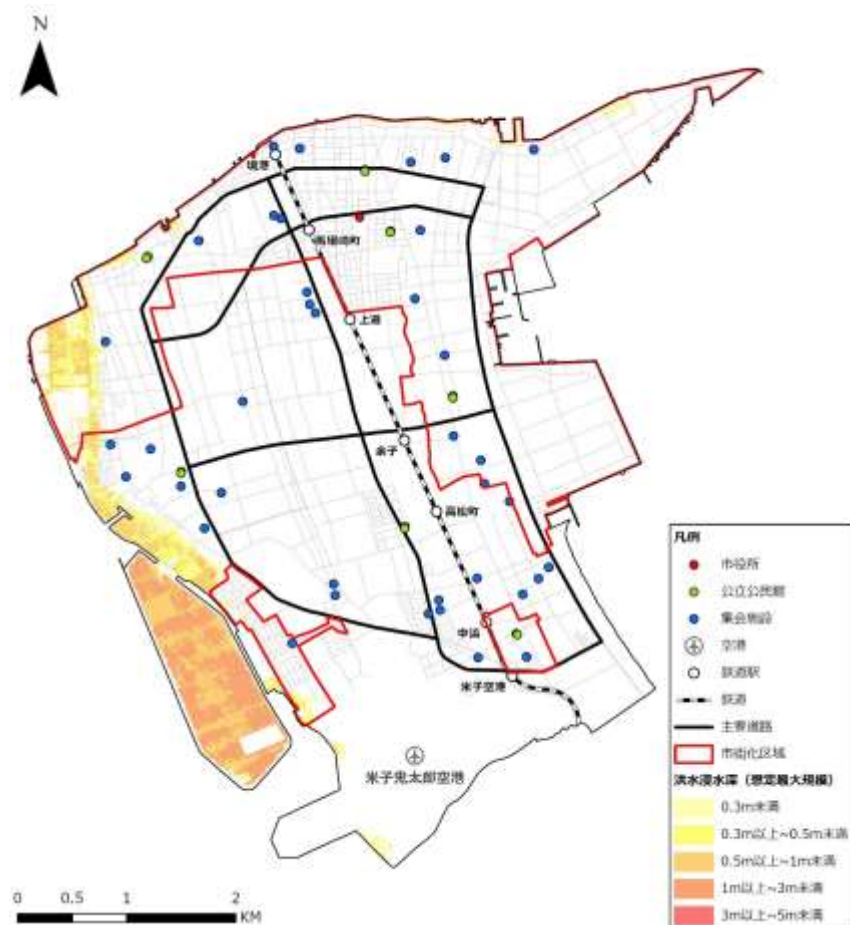


図 洪水浸水想定区域

資料：斐伊川水系洪水浸水想定区域図

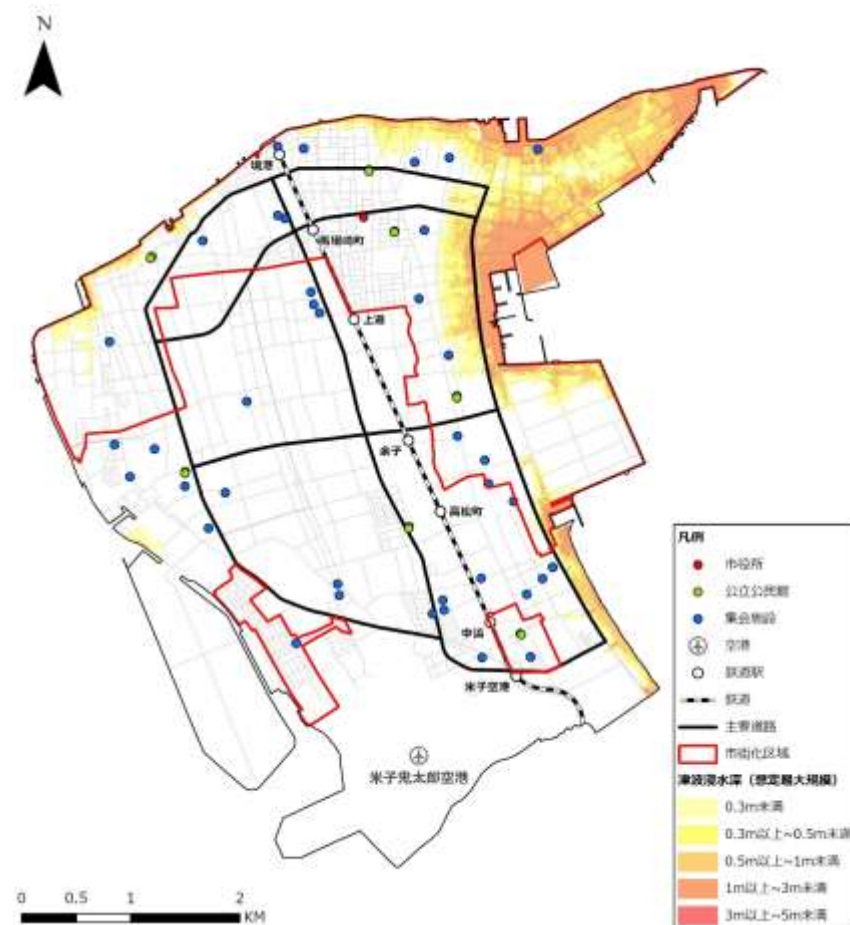


図 津波浸水想定区域

資料：国土数値情報

(4) 都市交通・インフラ(下水道)

- 公共下水道については、年々普及率が増加しており、令和5(2023)年度末時点で85.9%となっています。
- 令和7(2025)年度～令和8(2026)年度の下水道の整備箇所は外江地区に多く分布しているほか、市民体育館や文化ホールが集積する上道駅西側の区画などでも整備を予定しています。

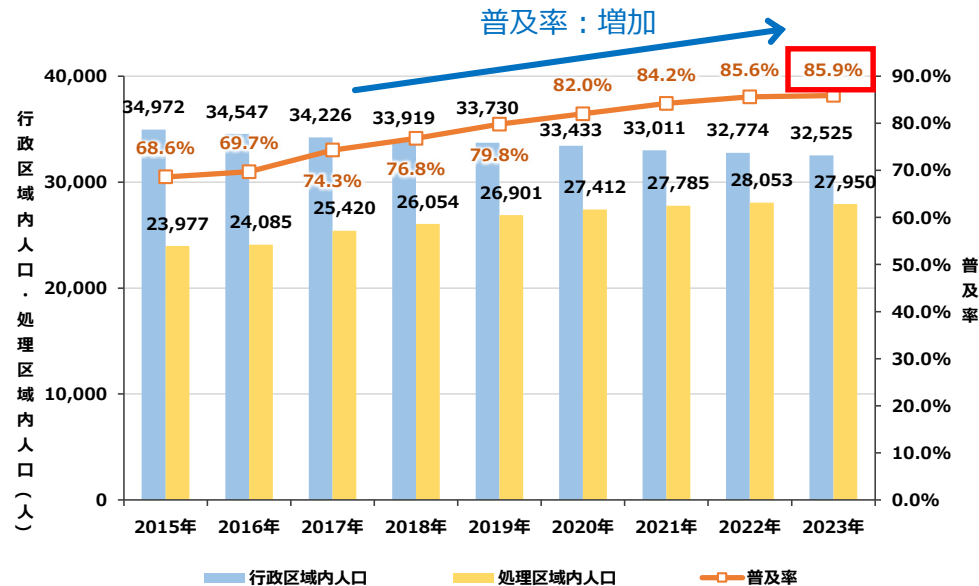


図 下水道普及率の変遷

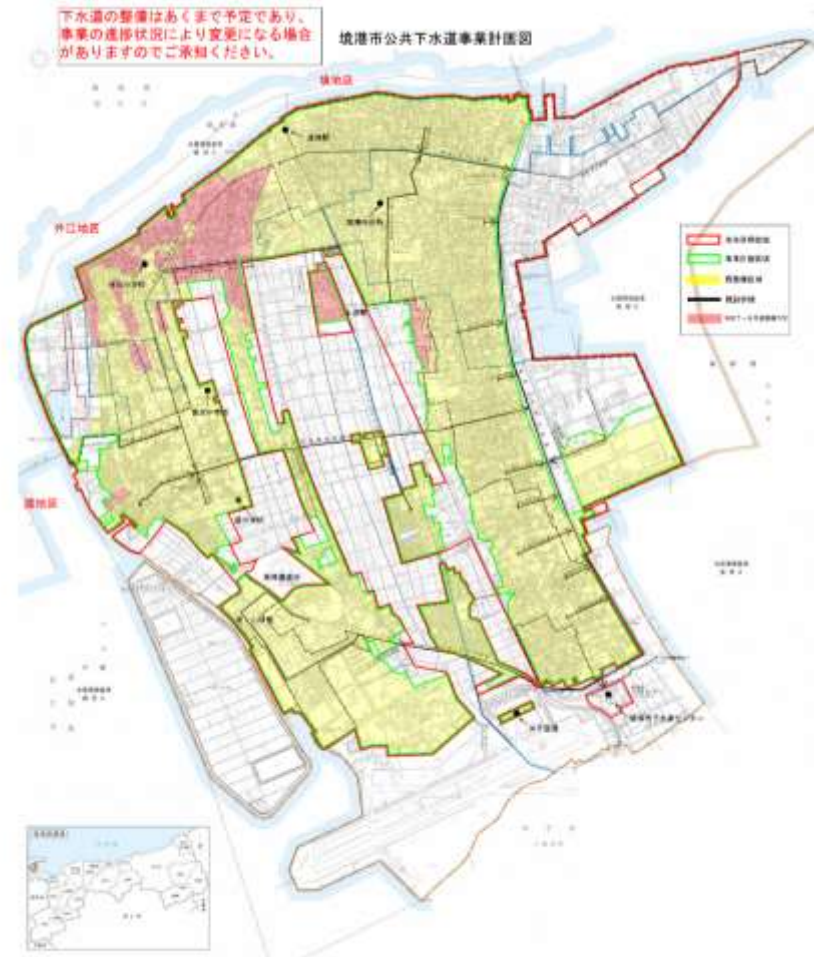
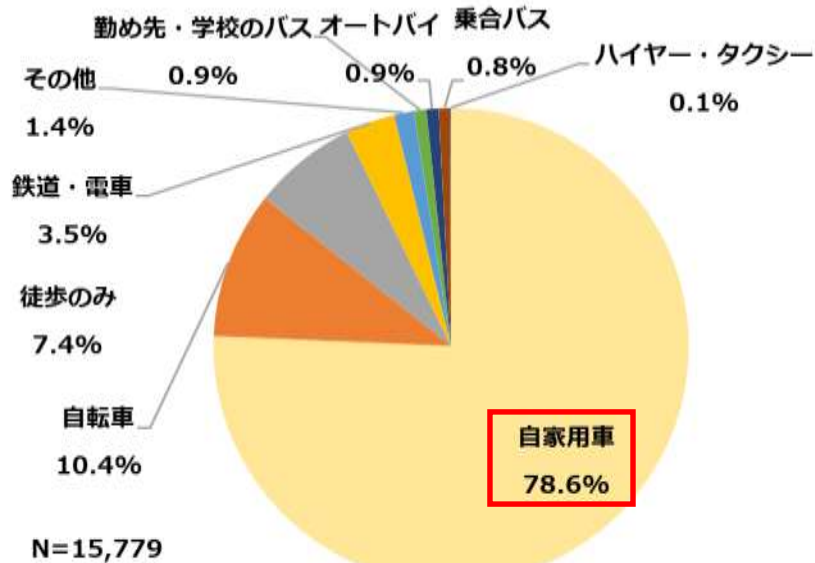


図 公共下水道整備済・予定区域 (令和7～8年度)

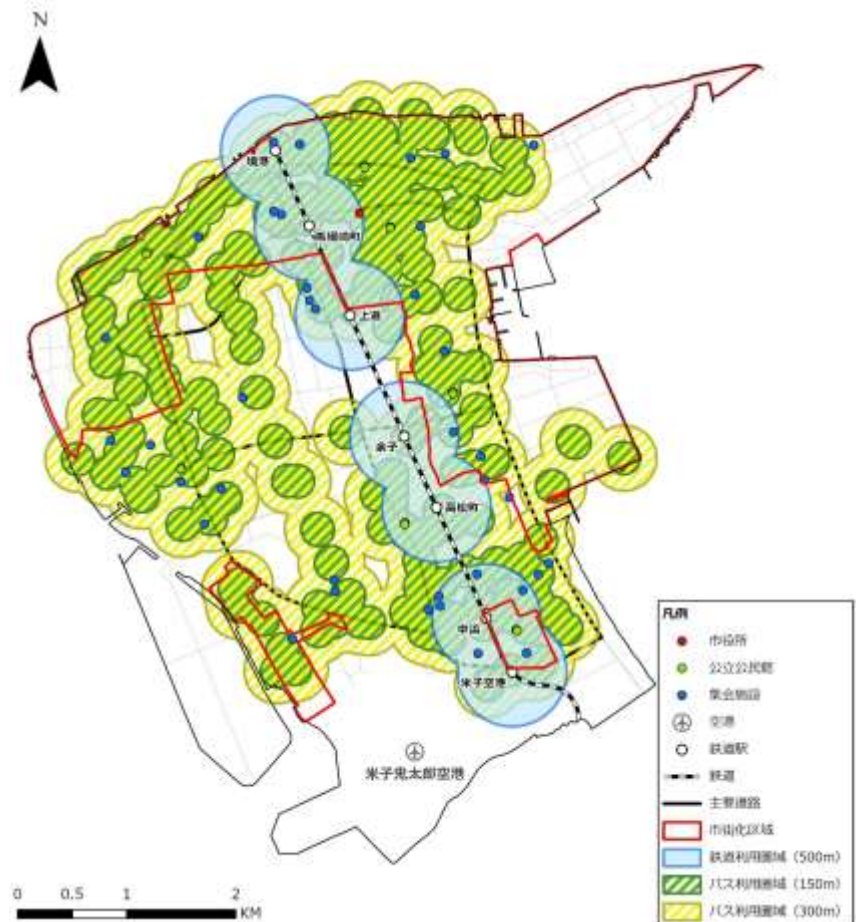
(4) 都市交通・インフラ(公共交通)

- 通勤・通学における利用交通手段は、自家用車を利用する方が78.6%と最も多く、次いで自転車、徒歩のみの順に多い状況であり、自家用車への依存度が高くなっています。
- 公共交通の利用圏域は、JR境線及び予約型乗合バス「みなとーる」によって市内の居住地域を広くカバーしています。



※総数は利用交通手段「不詳」を除いた利用交通手段の合計数
資料：国勢調査

図 通勤・通学における利用交通手段



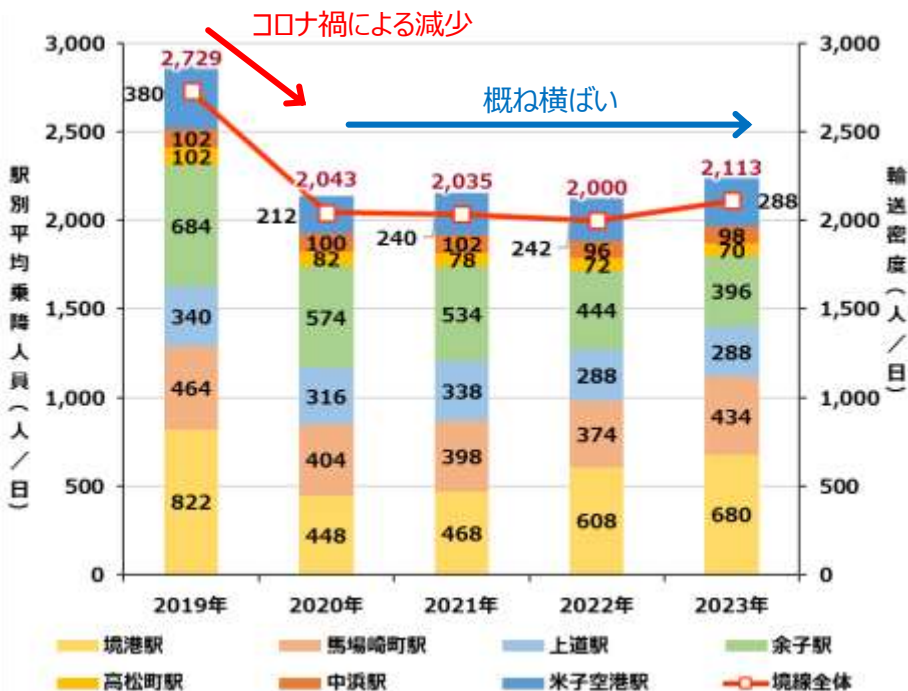
資料：国土数値情報（鉄道・鉄道駅）、境港市提供データ（その他施設データ）

図 公共交通の利用圏域（市全域）

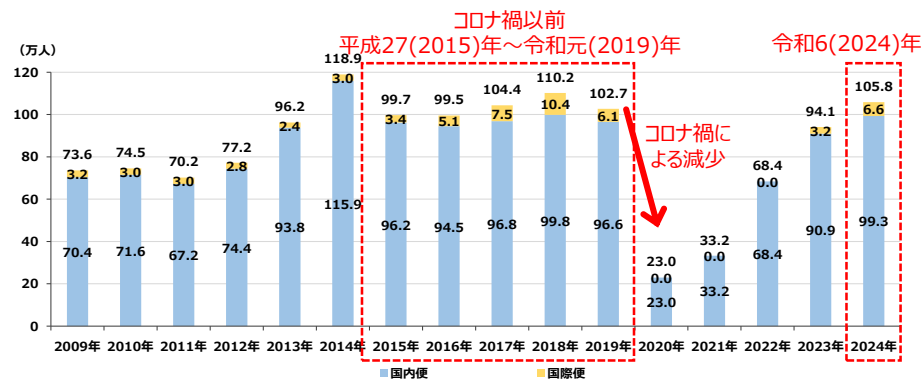


(4) 都市交通・インフラ(鉄道・飛行機)

- ・ JR境線の輸送密度は令和2(2020)年以降、概ね横ばいで推移しています。また、近年の市内の鉄道駅利用者数は、境港駅が最も多く、次いで、余子駅と馬場崎町駅の利用が多い状況です。
- ・ 飛行機の利用者数の推移は令和6(2024)年時点で概ねコロナ禍以前の水準と同程度となっています。



資料：JR西日本貸与データ、データで見るJR西日本
※輸送密度は境線全体の数値



※1 国内便はANA東京便
※2 国際線はソウル便、香港便、台湾便、上海便の小計
※3 合計は、上記※1と※2の合計
資料：鳥取県統計書

図 飛行機の利用者数の推移(米子鬼太郎空港)

図 市内鉄道駅の利用者数/輸送密度の推移

(4)都市交通・インフラ(コミュニティバス)

- コミュニティバスである予約型乗合バス「みなとーる」は、令和7(2025)年4月の運行開始以降、利用者数は増加傾向となっています。6月には日平均269人程度の利用があります。
- 利用者の属性を居住地別にみると市内の利用者が90%以上を占めています。また、年代別にみると80代以上が最も多く、30.6%であり、60代以上が利用者全体の60%以上を占めています。
- サービス運行開始からの3か月間で、利用者の約半数の方が月平均1回以上利用しています。



図 コミュニティバスの利用数の推移 (2025年4～6月)

資料：境港市提供データ

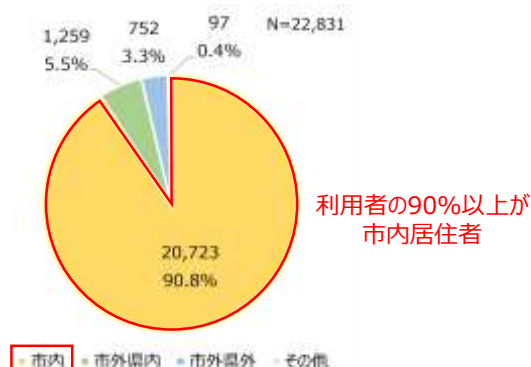


図 コミュニティバス利用者の居住地 (2025年4～6月)

資料：境港市提供データ

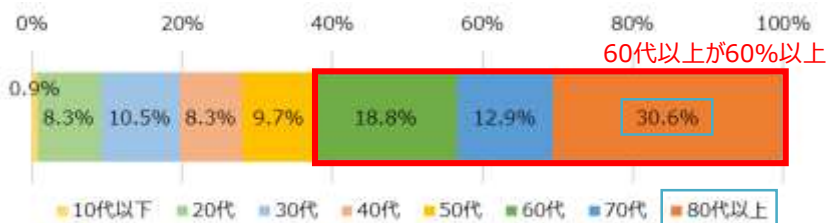


図 コミュニティバス利用者の年代 (2025年4～6月)

資料：境港市提供データ

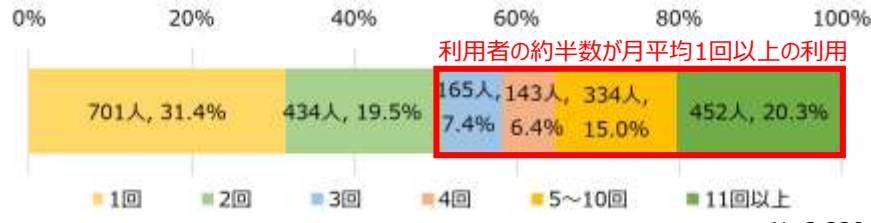


図 コミュニティバスのリピート回数 (2025年4～6月)

資料：境港市提供データ

(4) 都市交通・インフラ(公共交通)

- ・ コミュニティバス利用者の利用目的としては、買い物、通院、通勤での利用が特に多いです。
- ・ コミュニティバス利用者の目的地としては、市北部の市役所や病院、鉄道駅などの施設や、東部の商業施設が多いです。

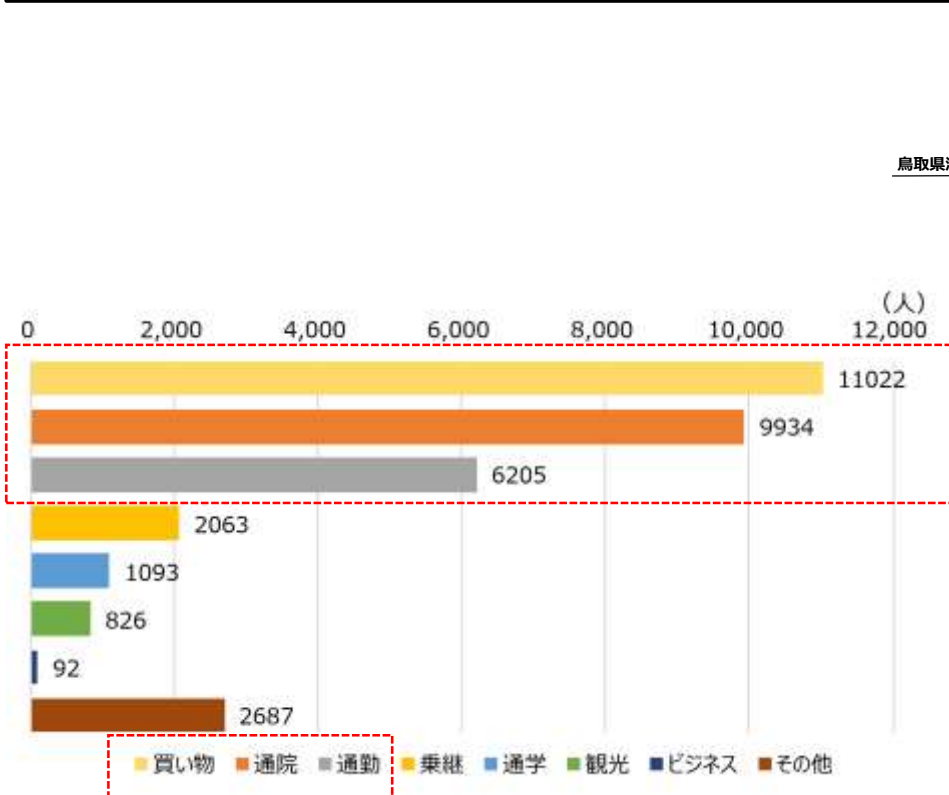


図 利用者の主な利用目的 (2025年4～6月、複数回答)

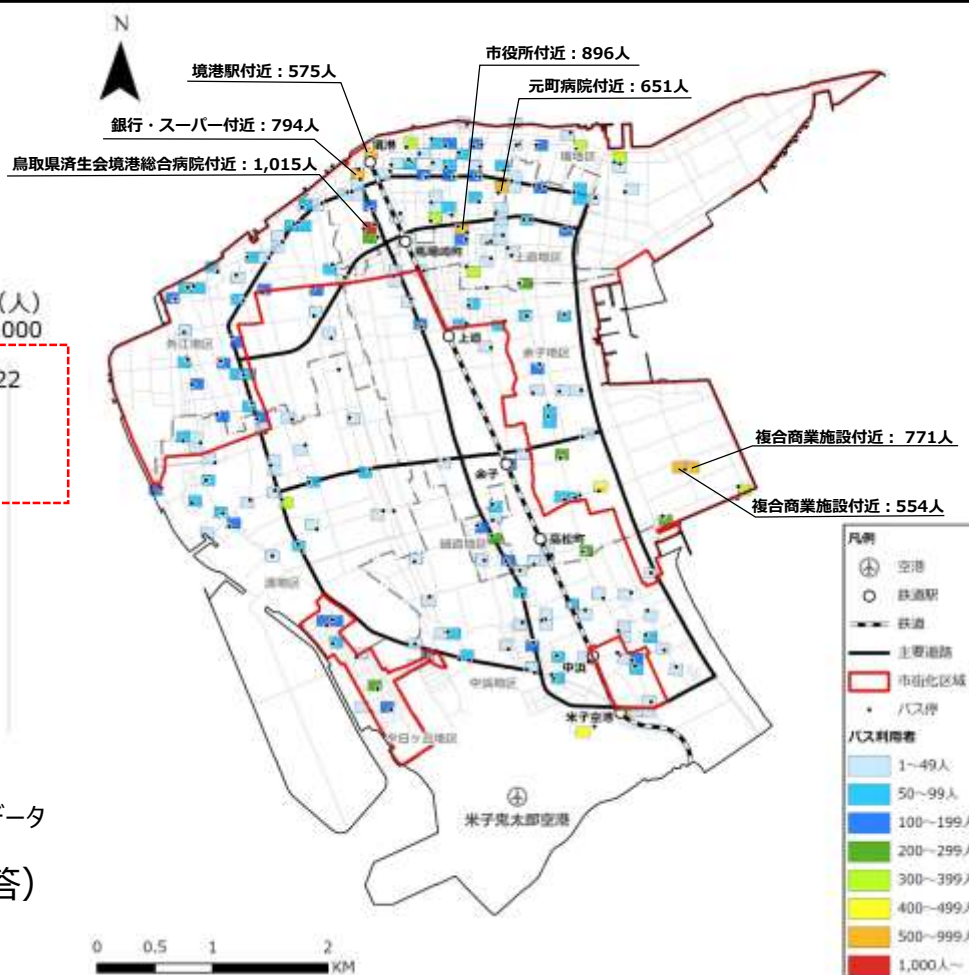


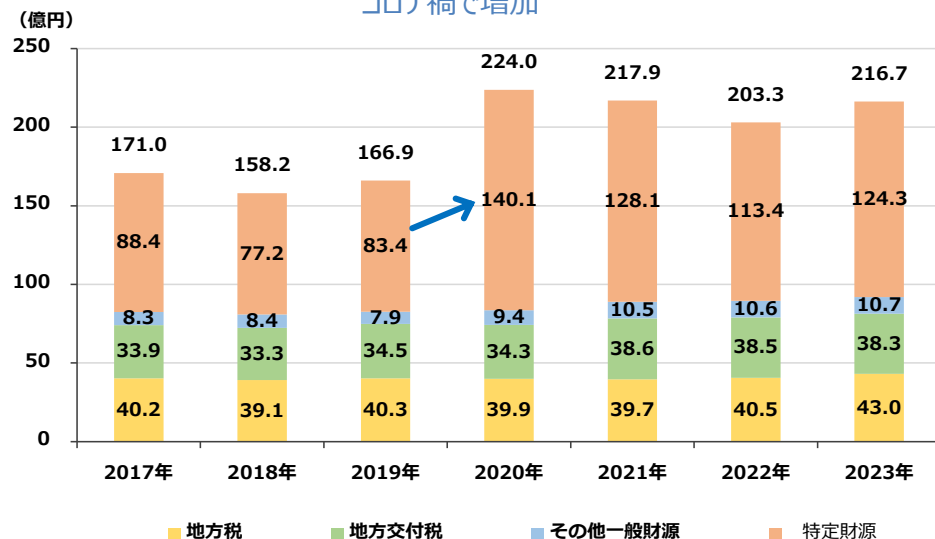
図 コミュニティバス利用者の目的地 (2025年4～6月)



(5) 財政

- 歳入について、地方税による税収は近年40億円前後で推移しており、地方交付税やその他一般財源は微増、特定財源は令和2(2020)年を機に増加しています。
- 歳出については、高齢者人口の増加により、社会保障にかかわる扶助費の支出が増加しています。また、歳出の合計も増加傾向にあります。
- 令和2(2020)年度における歳入の特定財源や歳出の補助費等は、新型コロナウイルス感染症への対応により増加しました。

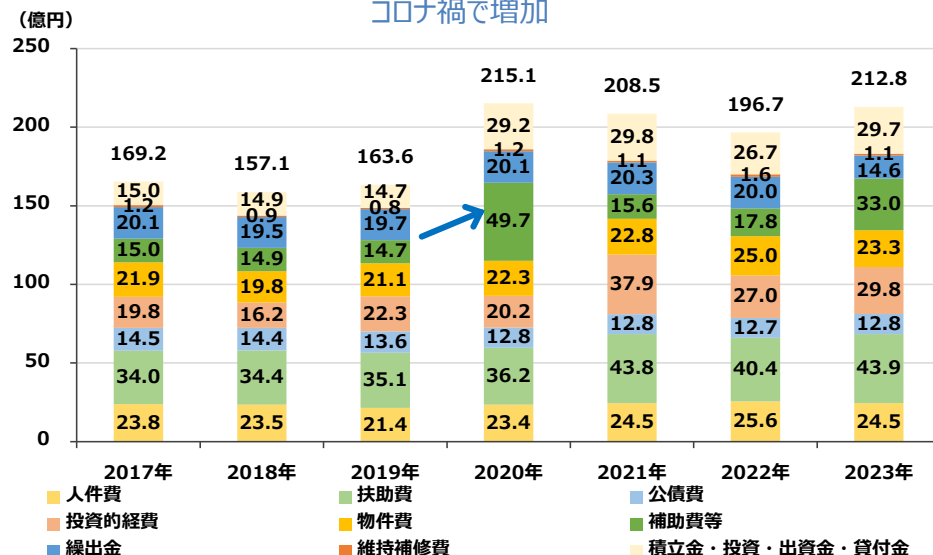
特定財源：
コロナ禍で増加



資料：総務省「市町村決算カード」

図 歳入の推移

補助費等：
コロナ禍で増加

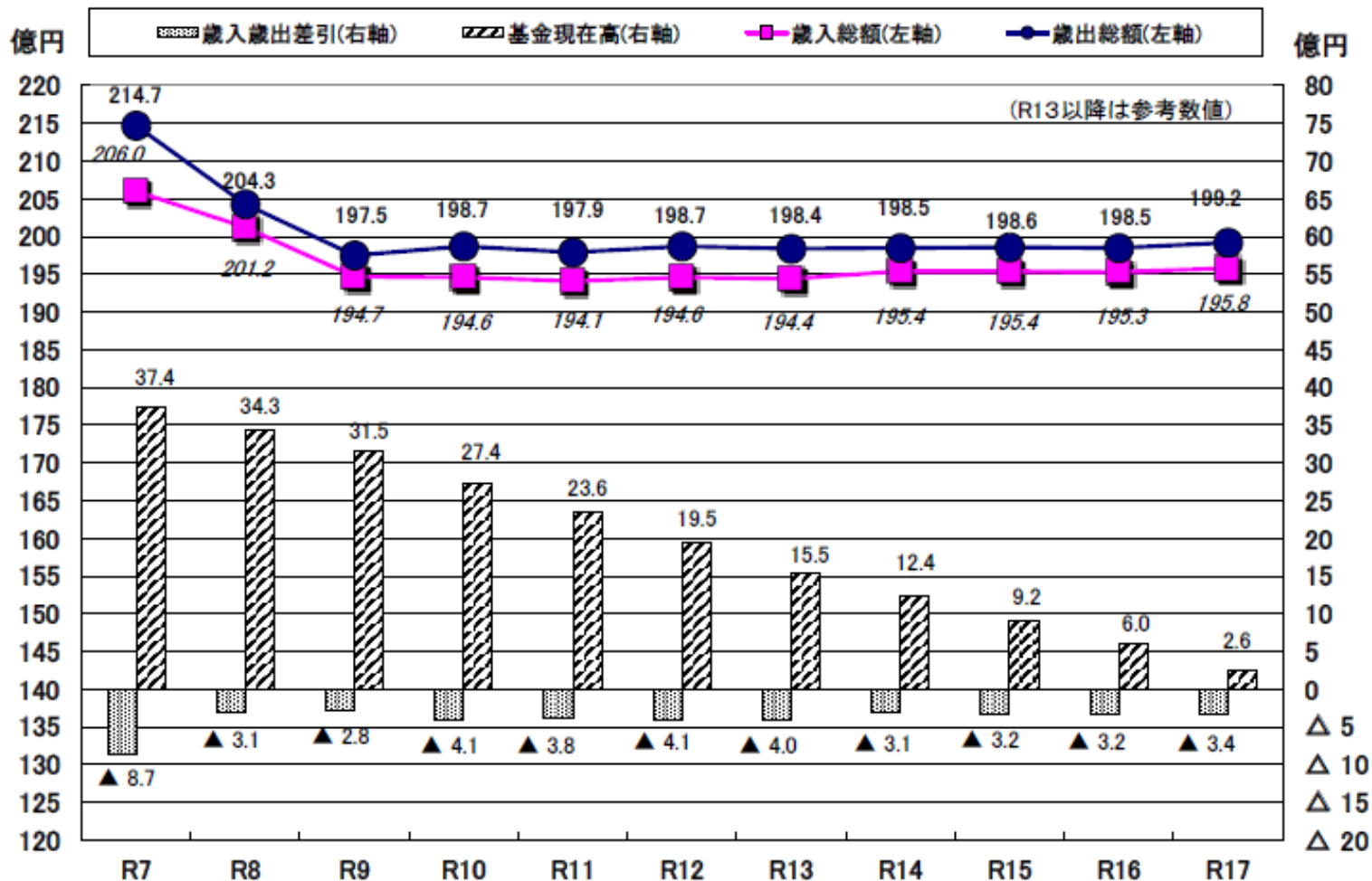


資料：総務省「市町村決算カード」

図 歳出の推移

(5) 財政

- 最新の財政推計資料によると、過年度までの傾向と異なり、今後も歳出超過の傾向が続くことが予想されています。本計画による都市機能の集約や、国県等からの補助金を積極的に活用することも重要となってきます。



資料：境港市提供データ

図 中期財政見通し（収支の状況：一般会計）

(1) 現状整理結果の概要

- ・ 前述までに整理した、本市の現状整理結果をまとめました。

人口

- 市全体の人口は平成12（2000）年以降は減少傾向であり、今後も人口減少、高齢化率の増加が見込まれている。
- 地区別では夕日ヶ丘地区のみ人口増加が予想されている。
- 世帯数は増加傾向であるものの1世帯あたりの人口は減少傾向であり、単独世帯や夫婦のみ世帯等の割合が増加している。
- 転出超過となっているが、その幅は縮小傾向にある。

土地利用

- 埋立事業により土地利用範囲が広がっているほか、建物用地への転換が進んでいる。
- DID（人口集中地区）は市内北部や竹内工業団地に広がっている。
- 生活サービス機能は市内で環状に分布しているが、特に境地区に集中している。
- 空き家率は増加しており、空き家は境地区、外江地区北部等で集中している。

防災

- 洪水（想定最大規模）による浸水が西岸を中心に見られる。
- 津波（想定最大規模）による浸水が昭和町工業団地等を中心に東岸に広く分布している。
- 市内に土砂災害（特別）警戒区域の指定は無く、土砂災害のリスクはない。

都市交通・インフラ

- 下水道の普及率は85%を超えており、今後も市街化区域を中心に整備を予定している。
- 交通手段は自家用車の割合が78.6%と高いが、公共交通網として鉄道（JR境線）や予約型乗合バス「みなとーる」により市街化区域外を含め居住地域を広くカバーしている。

財政

- 高齢者人口の増加により、社会保障にかかわる扶助費の支出が増加している。



参考資料

(1)人口(地区別)・将来推計含む ※参考資料

- ・ (参考)地区別の人口推計結果についての対象町丁等は以下の通り。

地区名	対象町丁
渡地区	渡町、森岡町、中海干拓地
外江地区	外江町、芝町、清水町、西工業団地
境地区	昭和町、岬町、花町、東雲町、入船町、朝日町、東本町、中町、相生町、末広町、栄町、日ノ出町、本町、松ヶ枝町、京町、明治町、馬場崎町、大正町、浜ノ町、米川町、蓮池町、弥生町、湊町、元町、潮見町
上道地区	上道町
余子地区	中野町、福定町、竹内町、高松町、美保町、竹内団地
中浜地区	新屋町、小篠津町、麦垣町、財ノ木町、佐斐神町、三軒屋町、幸神町
誠道地区	誠道町
夕日ヶ丘地区	夕日ヶ丘一丁目、夕日ヶ丘二丁目

※但し、人口データでは以下の扱いであることに留意

- ・人口の少ない竹内団地は美保町と合算
- ・人口の少ない佐斐神町は財ノ木町と合算
- ・中海干拓地、潮見町、西工業団地はデータが無く考慮対象外

【補足：前頁までの人口推計の条件】

2025年以降の人口推計値については、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2国調対応版）」を使用し、小地域（町丁）ごとのコーホート要因法（純移動率をベースとした考え）による推計結果を用いた。